

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-1090

③ 施設名等

名称：	子どもの園
施設長氏名：	和田 直熙
定員：	40名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1971/6/3
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人福光会
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	4名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	調理員
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	4ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	静養室、多目的室、学習室、心理室、親子支援室、自立訓練室、
施設設備の概要（ウ）：	実習室、international room
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<ul style="list-style-type: none"> ・「共に住もう」 ・「人はただ生きるのではなく、よく生きることをもっとも大切にしなければならない」
--

⑤ 施設の特徴的な取組

○「共に住もう」の理念の下、職員は子どもと一緒にホームに住み込み、養育・支援を実践している。入所から退所まで、親の代わりとして関わっている職員が多く、子どもたちは退所後も、職員に相談をしたり、ボランティアで来園したり、子どもたちと遊んだりしている。また、結婚が決まると園に報告に来たり、結婚式に職員が出席したりしている。生まれた子どもと一緒に遊びに来ることもあり、園を実家として捉えている子どもたちが多い。

○年度の初め、4～5月にはインサイドオリエンテーションを開催し、園長から園のあり方などの話を複数回行っている。インサイドオリエンテーションは、園内職員研修に位置付け、園長作成の冊子をもとに常勤の職員全員を対象にして実施している。インサイドオリエンテーションの冊子は分厚く、児童養護施設の支援のあり方を教育、心理、哲学などの分野の例を挙げながら職員に示し、研修を行っている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2024/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2025/2/10
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和3年度（和暦）

⑦ 総評

○設立して50年を超える歴史のある園で、4年前に園舎の建て替えも終わり、子どもたちが縦割り男女混合の4つのホームに分かれて生活を送っている。各ホーム、担当保育士、フリー保育士、指導員が複数体制で支援を行っているが、ホーム全体をひとつのファミリーと捉え、全職員が全員の子どもの育てるという考えのもと、子どもたちはどの職員にも相談できる体制を整えている。新園舎は、児童養護施設として、一般建築部門で日本で初めて優秀賞を受けている。

○職員は住み込みのため、暮らしを大切に、子どもと共に生活している。就寝時には幼児に絵本を読んだり、添い寝をしている。担当職員（またはフリー保育士）が常にホームにいることで、安心感が得られるようにしている。各ホーム内で、ゲーム大会やたこ焼きパーティ、担当職員とのおやつ作りなど、子どもたちが楽しい生活を送ることができるよう工夫している。学校行事の授業参観や音楽会、運動会、合唱祭などには職員が出席し、学校の友だちが遊びに来て、園の中で一緒に遊んだりしている。また、友だちの家に遊びに行く約束をして帰ってくることもある。その際には、ルールについて話をし、遊びに行っている。

○園内のグラウンドでは、サッカーなどのボール遊びができ、バスケットゴールも整えている。外遊びでは、一輪車やキックボードを自由に使って遊べるようにしている。園庭の作りを利用してリレー遊びをしたりして、子どもたちは工夫して遊んでいる。園庭に面したベツレームという建物内には、プラレールやシルバニアファミリーなどの玩具があり、雨の日も遊べるようにしている。縁側では、カードゲームをしたり、ハンモックも設置され、開放的で伸び伸びと遊べる環境が整っている。ラウンジでは絵本や図書も自由に読めるようにしている。

○各ホームでは、子どもたちが振り返りの時間を持っている。小学5年生以上の子どもは夜に、その日の振り返りを行っている。曜日ごとに決めた頑張ること、個人の目標、楽しかったことなどについて、子どもたちが話し合っ振り返りを行っている。振り返りの項目は、各ホーム、4月に子どもたちが決めている。その際には、ホームの目標も決めている。また、ホームの掃除当番も話し合いで決めている。不定期ではあるが、高校生会や女子会などを行い、子どもたちが主体的に考える機会を持っている。

○好き嫌いのある子どもには、「頑張って半分食べてみようね」、「一緒に食べてみよう」と声をかけながら、食材や食生活の大切さを伝えている。ホームの食卓でみんなで話題を共有し、会話をしながら、楽しく食事できるように心がけている。中・高校生は部活やアルバイトで食事時間が遅くなることもあるが、みんながいるリビングで食べるため、一人になることはなく、会話をしながら食事をする環境ができていく。「まんがめし」として、漫画に出てくるメニューを取り入れた食事の日があり、子どもたちが楽しく食べられる工夫をしている。食事の様子は、担当職員が栄養士に伝えている。

○大学進学については、高校2年生の後半から少しずつ話を始め、高校3年生の前半には、それぞれの進路を決めている。高校受験や大学受験、就職については、子ども本人の希望に添うように進めている。学校や児童相談所のケースワーカーとも話し合い、最終的には子ども本人が決断できるようにしている。奨学金の活用など、金銭面の援助の情報も伝えている。進学したり、就職した子どもの相談に乗ったり、中退をしてしまった子どもには、通信教育での学習の継続を進めるなどのフォローを行っている。

○今年度から自立支援担当を置き、卒園した子どもの記録を取る試みを行っている。退所後のアフターケアに関しては、進学先の学校と連絡を取ったり、就職後の相談にのるなど、可能な限り時間を作り対応している。子どもたちには、実家に代わる自分の家として捉えてもらい、いつでも相談ができる場所であることを伝えている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

- ・細部までよく観察して、診ようとしている姿が伺えました。
- ・明日を生きる子どもの全人性の尊重に関わって、子どもが求めている「子どもと生活を共にすること」を根本として取り組んでいるところですが、現今の社会システムから、そうした人材、人手を得るのが戸惑うことが多くあります。一方で、子どもが、心の奥深くで抱えている負い目を周りのひととの衝突の形で表出する独特の子どもや看護に当惑することに喫緊の対応することが多くなりました。そこから「学ぶ」環境の構築に腐心してもいます。これらのことをどのように認識するかを問われている思いで報告書を読んでいます。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

法人の理念はホームページに掲載して周知を図るとともに、パンフレットにも明記して、見学者やボランティア希望者などに伝えている。年度の初め、4～5月にはインサイドオリエンテーションを開催し、園長から園のあり方などの話を複数回行っている。インサイドオリエンテーションは、園内職員研修に位置付け、園長作成の冊子（インサイドサービス）をもとに常勤の職員全員を対象にして実施している。また、毎日の連絡会や週1回の職員会議などで、園の理念や方向性を職員に示している。子どもたちには、年度初めのホーム替えの時間や、月1回の誕生日会の場で、園長の話の時間を設け、理念などに触れている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
【コメント】		
全国児童養護施設協議会や、県や市の施設長会で入手した情報を、園長から職員に伝え、情報の共有を図っている。情報の共有は、毎日の連絡会や週1回の職員会議を中心に行い、資料なども用意し、タイムリーに職員に伝えるようにしている。県や市の施設長会には、園長の他に事務長や主任クラスの職員が一緒に参加している。連絡会や職員会議では、最後に園長が話をする時間を必ず設けて、必要な情報なども、その中で伝えている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	
【コメント】		
改善すべき課題としては、人材の確保があげられる。住み込みでの勤務が中心であり、また、人が人を援助する仕事であることから、人材の確保の難しさは深刻な問題となっている。人材不足に関しては、就職相談会に積極的に参加したり、待遇改善に取り組んでいる。光熱水費の高騰などに対しては、卒園後の生活につながることもあり、子どもたちにも節約を意識付けようとしている。経営状況は、職員は日々の養育に追われることが多く、どうしても役員や園長など上層部が担うことが多い。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		

中・長期的な計画は、国や自治体の方向が不確定で作成に難しさを感じているが、事業計画の中に、裏山の公園化など、今後の計画を盛り込んでいる。また、園長が作成するインサイドオリエンテーションの冊子「インサイドサービス」にも、今後の方向性を書き込んでいる。事業計画は、年度初めの会議で、職員に説明している。職員は子どもたちに対する対応が中心になるため、経営課題や長期的なビジョンについては、理解や把握が不足する部分がある。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

中・長期的な計画は、国や自治体の方向が不確定で作成に難しさを感じているが、事業計画の中に、裏山の公園化など、今後の計画を盛り込んでいる。長く勤務している職員は内容を理解しているが、新たに勤務する職員もいるため、職員会議の場で、事業計画の内容を説明している。単年度の計画は、毎月の会議で内容を精査した上で実施している。職員は子どもたちに対する対応が中心になるため、経営課題や長期的なビジョンについては、理解や把握が不足する部分がある。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

毎年度、園長が事業計画を策定している。策定にあたっては、全体の方向性は園長が、細かい部分については職員に確認して作成している。内容については、毎日の連絡会や週1回の職員会議の場で職員の意見や考えを聞いて修正している。職員は日々の業務や子どもへの対応を優先していることから、計画の周知については不十分な面もあると感じている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子どもたちが直接関わる行事については、子どもたちが皆参加する朝礼の場などで周知している。朝礼では、その日の予定やトピックスなどに触れている。行事については、その都度伝えているが、事業計画書のそれ以外の部分については、子どもたちに理解してもらう場は特に持っていない。また、保護者との関わりでは、複雑な背景を抱え、長期入所する子どもが多いことから、事業計画の周知は行われていない。今後についても、内容を伝えられないケースが多い可能性が高いことから、難しさを感じている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------	-------------

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

毎朝の連絡会や、週1回開催する職員会議を中心に、養育や支援のあり方を検討している。また月1回、ケース会議やヒヤリハット会議も定期的で開催している。上記により、検討、改善を行っているが、ホーム内の日常的な課題については、報告が不足する部分もある。職員の自己評価は、4月に課題、8～9月に意向調査、3月に総括を提出している。全体的に取り組みは一部の職員に負うところが多いため、今年度は自己評価の面接を、主任保育士など、若手の職員が中心になって担っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		

【コメント】

毎朝の連絡会や、週1回開催する職員会議を中心に、養育や支援のあり方を検討している。また月1回、ケース会議やヒヤリハット会議も定期的で開催している。直接処遇の場面で気になったことは、主任指導員から職員に話をしている。日々の記録を職員間で共有するとともに、一年を通して、子ども一人ひとりに対して、子どもの様子や今後の課題、担当自身のことなどを、担当職員が記入した「総括」の冊子をまとめ、職員皆が確認できるようにしている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

毎朝の連絡会では、園長より気になったことなどを職員に伝える他、ホームページやパンフレットに、園長の考えなどを表明している。また、年度初めには、内部研修(インサイドオリエンテーション)として、園長より職員に対して、園の理念の他、経営についての話を数回にわたって行っている。理事会で上がった話題のうち、職員に必要な事項は、職員会議の場などで、園長から職員に内容を周知している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

園長も高齢のため、研修会に参加することは少なくなったが、県や市の施設長会には積極的に出席して、関係機関との情報共有を図り、常に新しい情報を得るようにしている。施設長会には、事務長や主任指導員、主任保育士などがともに参加し、次年度の方向性の決定などにつなげている。施設長会などで入手した資料は、職員に回覧するとともに、法改正や必要な事項を職員に伝達している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちの行事に参加する機会は少なくなったが、誕生日会の中で、園長からの一言を話したり、普段も中庭で子どもと将棋を指したりして、子どもたちとの触れ合いの時間を持っている。また、会議の場では、職員の意見を聞き、助言したり、発言したりして、養育・支援の質の向上に意欲をもって、指導力を発揮している。日々の会話の中で、職員にアドバイスをしたり、報告書や関連書物には常に目を通し、職員が知っておくとよい情報を示している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

日々の連絡会の場などで、園長から職員にアドバイスをを行い、経営の安定に取り組んでいる。また、児童養護施設で働くことの意義についても、職員に話をしている。理念や基本方針の実現に向けて、職員の働きやすい環境整備などに取り組んでいるが、子どもとの関わりはすぐに結果につながらない難しい面もある。ゴミの減量やリサイクルについては、子どもたちにもその大切さを伝え、子どもたちを巻き込みながら取り組んでいる。裏山や中庭の緑を大切に、花を植えたりして緑化をすすめている。花は職員が植えたり、卒園生が定期的の手入れに来てくれている。太陽光パネルも設置している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

実習生の受け入れや就職説明会に職員が参加し、人材確保に取り組んでいるが、住み込みを中心とした働き方での人員確保には難しさがあり、十分とは言えない。また、希望があっても、実習段階でだめになるケースもある。人材育成に関しても、特に担当を決めず、主任職員やフリーの職員が担っているが、明確にする必要性も感じている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

人事管理は就業規則に基づいて行っているが明確ではないため、職員のできている部分を評価する仕組みができればと考えている。現在、園長や事務長、主任職員で話し合い、人事異動などにつなげているが、評価や人事の実施が正しく行われるためのチェック体制の必要性を感じている。職員の相談体制は、主任保育士を中心にして常時相談できる環境を整えている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○	

【コメント】

住み込みを中心とした勤務のため、ワークバランスを考えた働き方は難しい面もあるが、現在、通いで勤務も並行して取り入れている。誕生日会には職員も参加し、子どもたちのキャンプやホーム旅行には担当やフリーの職員が付き添い、充実した時間を過ごせるようにしている。また、年1回、2班に分かれて職員旅行も実施している。定期的な個別面談は行っていないが、日常的に話しやすい雰囲気はできており、その中で個々の仕事に対する意欲などを聴き取ったりしている。年1回、意向調査を実施していることから、その中で全職員の個人面談ができればと考えている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
---	----------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

各職員が、年度初めに目標を立て、年度末に総括を提出している。目標は「項目、水準」を明確に設定しているわけではなく、目標をきちんと立てられない職員もあり、課題がある。職員が共に生活する中での話し合いや会話を通し、互いの課題を意識し、自身の課題についても考える機会となっている。毎年、9～10月に意向調査を実施し、必要に応じて面接も行っているが、全員を対象にした定期面談は実施していない。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

外部研修は、主任指導員が担当し、神奈川県児童福祉施設職員研究会の研修の参加を促したり、経験年数や職種、個々の課題などに応じて職員を研修に派遣している。外部研修参加後は報告書を提出し、研修報告を行って情報を共有している。園長によるインサイドオリエンテーションを内部研修と位置付け、職員として考えるべきことや、支援の視点などを学んでいる。また、ここで働いていることを登山のパーティーとして捉え、職員が一丸となるために、月1回、職員パーティーを開催し、担当職員がゲームなどを企画して、リーダーシップやコミュニケーション力を養う場としている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

外部研修に、職員が年1回は参加できるようにしている。外部研修は、福祉の枠に限らず、一般企業の研修などにも参加できるといいと考えている。OJTやスーパービジョンについては、特別に体制が確立されていなくても、日々の連絡会や会議の中で、園長からのコメントや、経験のある職員の実践報告などから学びがあり、話し合いの中で具体的にアドバイスを受けられる環境を整えている。新人職員は、外部の新人研修に参加する他、先輩職員と一緒に仕事をし、全ホームで数日間実習を行い、日々の業務の中で教育を受けている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
---	---	---

<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

フリーの保育士を担当として、実習生の受け入れを行っている。現在、受け入れ人数は依然より少なくなったが、2ヶ月に1校は実習生を受け入れている。受け入れは、児童養護施設に就職を希望する学生を優先したいが、希望があれば広く受け入れることにしている。実習中は子どもとの関わりだけでなく、DVD視聴や園長の講話、反省会など、学びの場が充実するようにしている。実習中も学校からの巡回を受け入れ、連携を図っている。実習生の受け入れは就職につながるケースもあり、今後も積極的に行っていきたいと考えている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

ホームページに事業計画書や収支決算書、貸借対照表などを公開する他、WAMネットに財務三表を公開し、運営の透明性を確保する情報公開を行っている。また、SNSで日頃の活動の様子を伝えている。個人情報に留意して、慎重に公開している。学校や地域に向けてパンフレットを作成し、園の紹介や近況を伝えている。幼稚園や小学校の保護者会には、子どもの担当職員が参加して、園を紹介する時間を設けてもらっている。地域のイベントに積極的に参加するとともに、推進協の会合に毎月出席し、園の近況を伝えている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【コメント】

行政による監査の他、会計面において会計のソフト会社のアドバイスやチェックを、月1回受けている。法人の理事会でも、経営・運営面の確認を行い、公正かつ透明性の高い取り組みとなるよう努めている。この6月より、法人に顧問弁護士を置き、アドバイスを受けている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a

	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域との関わりを大切にして、運動会や老人ホームの訪問、学校の稲刈りなど、地域の行事には必要に応じて職員も付き添い、子どもたちが積極的に参加している。子どもたちは、遠足のおやつや洋服を買いに出かけたり、友だちと遊びに行ったりと外出することも多い。また、学校の友だちが園を訪れ、園庭で一緒に遊んでいることも多い。地区懇談会など、地域の集まりには、ホールの貸し出しも行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

事務を受け入れ担当として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティア希望の方には、園内を案内し、園の方針や取り組みなどを説明するとともに、ボランティア希望者の意向などを確認している。現在、学習支援やピアノ、遊びのボランティア、自転車の修理や園内の畑の整備、ヘアカット、七五三の写真撮影など、さまざまなボランティアが活動している。活動後は、それぞれに子どもの様子や意見などを記録に残してもらっている。ボランティア活動ノートを通して、活動内容や子どもの様子など、職員とボランティアの間で情報を共有している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

小・中学校や児童相談所とは、年1回園内で連絡会を行う他、日々互いに連絡を密に取り合い、時には小学校と児童相談所、園の三者でカンファレンスを行うこともある。支援級などを利用する子どもも増えてきており、市の教育課などとの関わりもある。リスト化はしていないが、子どもや園にとって有益と思われる機関との連携や新規開拓に力を注ぎ、会議での報告などにより、職員間で情報を共有している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

	(社会的養護共通) □施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	(5種別共通) □地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

地域の推進協に所属して、要請に応じて会合に参加して、地域の情報の入手や課題の把握に努めている。地域の各関係団体と意見交換を行い、地域の課題や取り組みなどの情報を共有したり、地域のお祭りの手伝いを行ったりしている。ただし、日々の業務の忙しさに追われ、地域課題への取り組みに関しては、受け身になってしまっている部分もある。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。 □把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 □把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。 □多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。 □施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。 □地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	b ○ ○
---	---	-----------------------------

【コメント】

積極的とは言えないが、地域の福祉に貢献できるよう取り組んでいる。地域の懇談会など、地域活動や行事にはできるだけ参加して、時にはホールや厨房の設備を貸し出している。今後は園の裏山を整備して、地域に開放する予定である。災害時には、緊急避難場所となるよう、防災備蓄品は、地域の方にも提供できるように備えている。防災用に井戸も備えており、今後は施設そのものの開放も考えていきたい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 □理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 □子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 □子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。 □子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 □子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	a ○ ○ ○

【コメント】

毎年実施する「インサイドオリエンテーション」の中で、子どもを尊重した養育のあり方や関わり方、子どもの人権などについて研修を行っている。毎日開催する連絡会では、個々の事例について、関わり方や支援のあり方などを検討し、情報の共有や共通理解ができるようにしている。子どもの希望通りになることが、尊重したことにはつながらないこともあり、子どもには丁寧に説明しながら養育・支援を実践している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。 □子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。 □規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。 □一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	a ○ ○ ○
---	---	----------------------

子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。

【コメント】

子どものプライバシーに関しては、インサイドオリエンテーションや日々の連絡会にて、常識的なことと捉え、職員に周知して取り組んでいる。2020年に新しくなった建物は、すべての部屋が個室であるが、子どもたちは学校から帰ってくると、中庭やグラウンドなどで遊び、夜も就寝までリビングで皆で過ごしていることが多く、「ともに住まう」ことを実践している。基本的に職員は子どもの不在時には部屋に入らないが、学校から忘れ物を届けてほしいなどの依頼があった時は入室することがある。起床時は、必ずノックをして声掛けしている。子どもたちも、他の子どもの部屋へは入室しないことを基本とし、プライバシーを尊重するよう伝えている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ① | 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。 | <input type="radio"/> |

【コメント】

児童相談所から入所依頼の連絡があると、その子どもの情報を聞き、男女比や学年などのバランスを考慮し、園内で検討会を行い、受け入れにつなげている。入所前には見学に来てもらい、生活面や園で大切にしていることなど、説明を丁寧に行い、本人に入所決定をしてもらっている。保護者との関わりは薄く、直接児童相談所のケースワーカーが説明している。入所後も、保護者の面会は少なく、数人の面会に来てくれる保護者には、園の内容、生活の状況などを説明している。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ② | 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。 | b |
| | | <input type="radio"/> |
| | | <input type="radio"/> |
| | | <input type="radio"/> |

【コメント】

入所後には、具体的な養育・支援方法について、本人と担当が話し合い、目標を考えて自立支援計画書を作成している。生活の状況は、直接連絡できない保護者が多いため、児童相談所のケースワーカーに連絡し、保護者に伝えてもらっている。連絡可能な保護者には、就職先や手帳の取得、今後の支援のあり方などを伝え、同意を得て取り組んでいる。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ③ | 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。 | b |
| | | <input type="radio"/> |
| | | <input type="radio"/> |
| | | <input type="radio"/> |

【コメント】

昨年度、子どもの措置変更は0件、家庭引き取りも0件であった。高校を卒業した子どもは4名おり、就職、進学とそれぞれ一人暮らしを始めている。一人暮らしを始めるにあたっては、児童相談所や地域の関係機関と連携を取り、必要な情報を提供している。また、退所後スムーズに一人暮らしができるよう、自立支援室を活用して、リビングケアを行っている。以前、措置変更があったケースでは、移行先と連携を密にとりながら情報を提供し、やり取りは文書に残している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。 <input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。 <input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。 <input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。 <input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	a
		○
		○

【コメント】

子どもの満足とは何か、満足とは何を指し示しているのか、まずは職員間で話し合う必要があると捉えている。園に目安箱を設置しているが、あまり活用されていない。それは、すべての子どもが、職員誰（事務職、調理職も含む）にでも希望や要望を口頭で伝えている結果と考えている。園では「子どもと共に生活をする」ことが目標となっているため、子どもと遊んでいる時、食事の時、就寝前など、いつでも好きな職員に自分の思いを話している。子どもたちは、「リーダー会」や「高校生会」、「女子会」などで、それぞれの意見を交換しながら話し合いを行っている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。 <input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。 <input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。 <input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。 <input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。 <input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	a
		○

【コメント】

苦情解決責任者と苦情受付担当者を置き、苦情解決の体制は整備しているが、掲示物などは園内に掲示していない。職員は「家庭にはどこにもそんなものは貼っていないですね」と話していた。園全体を大きな家庭と捉えているため、掲示物は少なくしている。目安箱も設置しているが、要望などがある場合、子どもたちは直接職員に話をしている。人と人との関係の希薄やコミュニケーション不足が問われている中、子どもたちと職員との会話や笑い声が満ち溢れている園を目指している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	a
		○

【コメント】

子どもたちには特に文書で説明してはいないが、いつでもだれにでも、意見を伝えることができる環境を作って対応している。4つのホームをひとつのファミリーとしてとらえているので、どの職員も同じように子どもたちの意見に向き合うようにしている。子どもたちの意見や要望は、毎日行われる連絡会で検討し、解決できるよう対応している。園全体のルールの見直しや意見などは、連絡会や職員会議で検討し、結果を子どもたちに報告している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもから出た要望や意見は、毎日の連絡会で報告し、全職員が把握するようにしている。小さい子どもから職員に対して、「今夜一緒に寝て」、「一緒にお風呂入りたい」などの個人の希望は、連絡会で共有し、夜間の職員の手配などを行い、すぐに希望が叶えられるようにしている。「友だちと外出したい」との希望があった時には、安全な場所かどうか、時間はどうか、目的は何かなど、連絡会で検討し、「NO」という場合もある。そのような時は、どうして「NO」なのかを良く説明して理解してもらったり、職員も一緒に行くという条件で可能にしたりと、状況に応じて、一緒に考えて対応している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジャーという名称は使っていないが、指導員が責任者となり、ヒヤリハット会議を定期的開催している。ヒヤリハット報告書にあげられた事例について、どうして起こったか、今後の予防策を検討して、全職員が共有できるようにしている。中庭での一輪車などの使用では、一方通行のルールが守られなかったことや、サンダル履きでの使用で、転倒して骨折したケースがあった。子どもたちが安全に遊ぶ意識を持てるように話し合いを行い、危険防止に取り組んでいる。子どもたちの遊びには、すべての子どもに目が届くよう職員の配置を考えている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	

	○
--	---

【コメント】

インフルエンザやノロウイルス、新型コロナウイルスなど、感染症対策のためのマニュアルを整備している。感染症発生時には、誰でも早急に対応できるよう手順を整備して共有している。隔離が必要な時は、自立支援室などを活用して、拡大防止に努めている。新型コロナウイルスの流行が広まり始めた1、2年は感染者は少なかったが、後半になってから感染者が多く出て、自立支援室や親子訓練室、中庭の卒園生が宿泊できるベツレヘムなどを使用し、感染者は療養することができた。コロナ前には外部の保健師に来てもらい、感染症のための研修を行ったが、現在は行っていない。マニュアルの見直しなどは、指導員を中心に実施している。毎年、救急救命法の講習会に職員が順番に参加している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

防火管理者を定め、災害時マニュアルを整備して、災害時の子どもの避難体制、職員の動きなどを決めている。消防署と連携を取り、水消火器やDVDを借りて、毎月避難訓練を実施している。毛布を使用しての搬送法、バケツリレー、9月には夕食にランタンを使用して、床の上に新聞紙を敷き、座って非常食を食べるなど、災害時の体験もしている。自治会との契約により、有事の際は地域の方たちの受け入れも可能となっている。そのため備蓄品も整備している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

マニュアルとして文書化していないが、養育・支援についての標準的な実施方法や職員の姿勢、言葉遣い、意思の尊重、プライバシーの保護など、「インサイドオリエンテーション」の冊子に記載がある。年度初めには全職員を対象に、インサイドオリエンテーションを行い、園長から支援についての考え方や方法などの話をしている。日常の支援でも、インサイドオリエンテーションの冊子を引用して、支援のあり方などについて話し合いを行っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

インサイドオリエンテーションの冊子は、毎年作成して職員に配布している。養育・支援の基本は大きく変わらないが、さまざまな事情を抱えた子どもたちへの対応として、教育学や心理学、医学、哲学など、先人の著書や言葉などを、資料として載せている。職員は、一人ひとりの子どもに対して、さまざまな角度から考え、対応することができるようになっている。毎日の連絡会や職員会議、ケース会議などにおいて議論を重ね、すべての子どもに対し真剣に取り組んでいる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

アセスメントという言葉はあまり使用しないが、子どもの状況把握については、日々の子どもの生活の様子や「育成日誌」、「ケース会議録」、「職員会議録」、問題があった時の「対応メモ」、児童相談所や学校、心理士からの情報などから、個々の子どもの情報を把握して、自立支援計画につなげている。自立支援計画書は、担当の保育士、指導員が年度初めに子どもと話し合いを行って作成している。子どもの思いを中心にして、今年度の目標や抱負、中・長期目標などを立てている。対応が難しいケースの場合は、児童相談所のケースワーカーや、学校の担任などとカンファレンスを行いながら、支援にあたっている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

組織として仕組みや手順は整備されていないが、半年後に子どもと一緒に計画の振り返りを行い、自分で立てた目標がうまく進んでいるか考える機会を持っている。部屋の片付けを目標にしたがうまくいかなかったなど、反省点が出た時には、どうしてできなかったかを一緒に考え、できるようにするための方法を考えていくようにしている。ほとんどの子どもは、年度末に振り返りを行い、次年度につなげている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○

<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は一人1台タブレットを持っており、自立支援計画書や育成日誌、各会議録など、子どもの養育・支援に関わる記録を、いつでも閲覧し、共有できるようにしている。子どもたちを「皆で育てる」ことが園の目標であるため、全職員がすべての子どもを理解し、記録を共有し、統一した関わりができるよう努めている。また、何十年ものベテラン職員や新人職員がおり、個々の指導力や意識に依るところが大きいため、園の考え方や子どもに対する関わり方を、記録の共有により理解できるようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="radio"/>

【コメント】

書類に関する管理責任者は園長としている。記録の取り扱いについては、就業規則に明記する他、入職時に個人情報保護について職員と誓約書を交わしている。また、会議を通し、書類の取り扱いについて自覚を促すよう取り組んでいる。個人情報の保護は、ボランティアや実習生にも説明して理解してもらっている。保護者と直接関わりが持てないことが多いため、保護者に個人情報保護の説明をする機会は少ない。また、保護者から記録の開示を求められたことはない。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年度初めのインサイドオリエンテーションで、権利や権利擁護について取り上げ、職員に周知するようにしている。また、毎日の連絡会や職員会議で、子どもとのやり取りや対応の仕方について確認を行っている。職員1人で対応しきれない場合は、職員間で協力して対応していくことなどを話し合い、支援するようにしている。携帯電話を持つことなど、具体的な例を通して、権利擁護に関わる話し合いも行っている。子どものアドボカシーについて、職員会議の場で研修報告を行い、内容を共有している。研修資料は事務所に置き、いつでも確認できるようにしている。キリスト教の精神の下、教育を行い、教会関係のつながりやお世話になっている方々を大事にし、月1回の礼拝へはできるだけ参加するよう促すことはあるが、個人の考えや意見を尊重するようにしている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

日常生活の中で、食事や遊び、けんかの仲裁など、いろいろな場面で「自分を大切にすること」また「相手も大切にすること」を、年齢に応じて伝えるようにしている。入所時には、児童相談所のケースワーカーが「子どもの権利ノート」の説明を行い、手渡している。「子どもの権利ノート」は、職員も内容を把握するようにしている。「知らない」と職員に渡してくる子どももいるが、書かれている内容や大切さを改めて伝え、子どもたちが自分で持つようにしている。「今まではこうだったでしょう」というような価値観で判断するのではなく、その都度、話し合いを持ち、一人ひとりを尊重することを意識して関わっている。子どもの些細な変化に気付けるよう心がけ、一緒に住み暮らしているメリットを活かして関わっている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもから話が出た時に、生き立ちの振り返りを行っている。成長の様子や小学校入学を機に、生き立ちについて気にかける子どもが多くいる。児童相談所と連携を取り、担当ケースワーカーとも協力し、生き立ちの整理を行っている。内容や伝え方、フォローの仕方は、子どもの年齢など一人ひとりに合わせて、連絡会で検討し、慎重に対応している。児童相談所が対応した生き立ちの整理の状況は、報告を受け、職員間で共有し、今後の子どもの自己肯定感に繋がるよう取り組んでいる。昔のアルバムを一緒に見たり、母子手帳を見ながら子どもと話をしている。子どもから家のできごとや小さい時の話を聞くなど、日常の中で生き立ちの振り返りを行っている。園での写真は、子どもが気に入ったものを選び、自分たちでアルバムを作成している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○

被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。

【コメント】

子どもと職員が共に住み、生活していることから、子どもとの距離は近くなりやすい。子どもとの距離感について、注意することを心がけている。自傷や他害、暴言、暴力など難しい課題を持つ子どもが増えてきており、不適切な関わりが生じるリスクがあると感じている。支援の方法など職員会議で共有し、1人で対応が難しい場合には、必要に応じて2人体制、または別の職員と交替するなど、担当職員だけではなくワンチームとして、他職員も積極的に関わられるよう連携を取り支援を行っている。各ホーム、構造上で死角となる場所を職員間で共有し、常に意識して対応するようにしている。不適切な関わりが発生した場合は、職員会議で報告し、児童相談所や市の家庭支援課に連絡している。小さな子どもへの乱暴な対応など、子ども間のことについても、注意して対応することを心がけている。声をかける、話をする、物理的に離すなど、その場に応じて行っているが、遊びでじゃれ合っているのか、いやいやなのかなど、見極めが難しいこともある。意見箱を玄関前に設置し、子どもが意見や相談に利用できるようにしている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所の準備は、児童相談所と連携を取りながら入念に行っている。入所前には見学を行い、子どもたちの細かな疑問や質問に答えるようにしている。子どもたちからは、化粧や携帯電話の使用などの質問が出たりしている。また、園での基本理念、大切にしていること、生活上のルールなどを伝えるとともに、「共に生活するファミリーとして、一緒に楽しく生活しよう」というメッセージを伝えるようにしている。在園児には温かく迎え入れができるように話をしている。子どもたちはすぐに受け入れ、生活面の様々なことを教えたり、遊ぶ姿が見られている。入所日の夕食時には、その子どもの好きなものを用意し、全ホームの子どもたちが食堂に集まり、紹介している。小さな子どもは、年齢に合わせて、使いやすい個人の食器を使用している。担当職員は、園のルールに戸惑っていることはないか、一人になってはいないかなど、丁寧に関わるようにしている。生活全般に早く慣れ、安心して暮らすことができるように寄り添っている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

今年度から自立支援担当を置き、卒園した子どもの記録を取る試みを行っている。退所後のアフターケアに関しては、進学先の学校と連絡を取ったり、就職後の相談にのるなど、可能な限り時間を作り対応している。子どもたちには、実家に代わる自分の家として捉えてもらい、いつでも相談ができる場所であることを伝えている。本人からの連絡だけでなく、アプリや電話を利用し、園側からも状況把握に努めている。子どもたちが携帯電話を持つようになってから、卒園児と在園児が連絡を取り合い、卒園児が遊びに来ることが多くなった。絵本を購入して持ってきてくれることもあり、卒園児と在園児の縦のつながりができている。年1回、卒園児と退職職員が集まる「ひまわり会」のイベントを開催している。退所に向け、小学6年生の後半から、少しずつ段階を踏んで洗濯に取り組み、中学からは自分でできるよう支援している。卒業年には、栄養士による料理指導を行い、料理本をプレゼントしている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
困っていることを隠す、相談しない、反発する、自分だけに厳しい、嫌われている、差別されているなど、子どもたちのさまざまな言動に対して、毎日の連絡会や職員会議で共有し、話し合いを行っている。月1回、職員全員が参加するケース会議では、一人ひとりの子どもに対する受け止め方や支援方法について、検討し共有している。年1回、ホーム替えを実施しているが、入所間もない子どもや年齢の低い子どもは、安心できる生活を重視して、できるだけホームが替わらないよう配慮している。また、担当職員との関わりを大切に、ケース担当職員は、基本的に入所時から変わらないようにしている。学校に行き渋ることなどがあれば、学校とカンファレンスを行い支援している。また、年度の初めには、学校と連絡会を開き、クラス担任の先生にホーム担当職員が園での様子を伝えている。必要に応じて、児童相談所や心理士と連携を取ることで気付きを得ることも多く、カンファレンスを行い、より良い支援につながっている。子どもとの信頼関係は見えにくい面もあるが、卒園生から「園に守られていた」と話を聞くことがあり、信頼関係を実感することが多くある。		
②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	
【コメント】		
職員は住み込みのため、暮らしを大切にし、子どもと共に生活している。就寝時には幼児に絵本を読んだり、添い寝をしている。担当職員（またはフリー保育士）が常にホームにいて、安心感が得られるようにしている。各ホームに2つの浴室があり、入浴の順番は各ホームで決めている。母の日や父の日には、子どもたちの希望で、大風呂に職員と一緒に楽しむこともある。各ホーム内で、ゲーム大会やたこ焼きパーティ、担当職員とのおやつ作りなど、子どもたちが楽しい生活を送ることができるよう工夫している。学校行事の授業参観や音楽会、運動会、合唱祭などには職員が出席し、動画を撮ってホームで子どもたちと鑑賞している。学校の友だちが遊びに来て、園の中で一緒に遊んだりしている。また、友だちの家に遊びに行く約束をして帰ってくることもある。その際には、ルールについて話をし、遊びに行っている。一人ひとりの希望に対しては、ルールを守りながら、柔軟な対応ができるようにしている。		
③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○

<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	

【コメント】

各ホームでは、子どもたちが振り返りの時間を持っている。小学5年生以上の子どもは夜に、その日の振り返りを行っている。曜日ごとに決めた頑張ること、個人の目標、楽しかったことなどについて、子どもたちが話し合って振り返りを行っている。振り返りの項目は、各ホーム、4月に子どもたちが決めている。その際には、ホームの目標も決めている。また、ホームの掃除当番も話し合いで決めている。不定期ではあるが、高校生会や女子会などを行い、子どもたちが主体的に考える機会を持っている。学校の準備は、基本的に子ども自身で行うようにしており、必要に応じて声かけをしている。忘れ物をしてしまった場合には、届けることもある。休日は外遊びをする子どもが多いが、ホーム内でゆっくり過ごしている子どももおり、自由に過ごしている。最近では学校から帰った後、自主的に「駅伝大会の練習をする」と園の周りを走っている子どももいる。いままで自分で決めてきたことがなかった子どもは、自分で決定しきれず、職員に決めてもらおうとすることも多くあるが、「なんでもいいではなくて、一つ選ぶうね」と、生活の中で小さな選択を自分でできるよう声かけを心がけている。必要に応じて、指導を行っているが、反発がある場合は、繰り返し、時間をかけて理解につながるよう支援している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園内のグラウンドでは、サッカーなどのボール遊びができ、バスケットゴールも整えている。外遊びでは、一輪車やキックボードを自由に使って遊べるようにしている。園庭の作りを利用してリレー遊びをしたりして、子どもたちは工夫して遊んでいる。園庭に面したベツレームという建物内には、プラレールやシルバニアファミリーなどの玩具があり、雨の日も遊べるようにしている。縁側では、カードゲームをしたり、ハンモックも設置され、開放的で伸び伸びと遊べる環境が整っている。ラウンジでは絵本や図書も自由に読めるようにしている。iPadを使用している学習やパソコンの使用はラウンジで行っている。また、相手と向き合う、相手と関わって一緒に遊ぶことが大切と考えることから、テレビゲームやゲーム機は置いていない。遊びの中で起きるトラブルに対し、大きな子どもが子ども同士の間に入って解決している姿が見られることから、年齢や発達状況の違う子ども同士の関わりも大事にしている。土日曜日には、子ども未来財団からボランティアが来園して、子どもたちと一緒に遊ぶ活動を行っている。また、キッズルームがあり、幼稚園に行かない日の未就学児に、午前中保育を実施している。学習ボランティアや塾を活用し、学習を進めている。近所のピアノ教室に通っている子どももいる。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束と一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	

【コメント】

「ありがとう」や「ごめんなさい」などの挨拶は、その時に応じて、子どもたちが主体的に言えるよう促している。そのため、職員は率先して挨拶するよう心がけている。「何で謝らなければいけないのか」と疑問をぶつけてくる子どももいるが、その都度、話をするようにし、納得と理解を得られるよう支援している。食事の際に、お皿を持って食べることができない子どもが多く、食事のマナーについても、その場に合わせたようにしている。入浴のマナーについても、入浴後には、お湯を流してから、次の番に回すなどのルールを決めて取り組んでいる。歯磨き後には、子ども同士で点検し合う姿が見られている。携帯電話については、職員と子どもたちそれぞれが調べ、a u ショップの人に来てもらい、危険性について話をしてもらっている。子どもたちから出た意見を元に、話し合いを行い、「ルールブック」を作成している。地域行事の地区運動会などに参加し、関わりを持つことで、社会性を身につける機会を持っている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

好き嫌いのある子どもには、「頑張って半分食べてみようね」、「一緒に食べてみよう」と声をかけながら、食料や食生活の大切さを伝えている。ホームの食卓でみんなで話題を共有し、会話をしながら、楽しく食事できるように心がけている。中・高校生は部活やアルバイトで食事時間が遅くなることもあるが、みんながいるリビングで食べるため、一人になることはなく、会話をしながら食事をする環境ができています。「まんがめし」として、漫画に出てくるメニューを取り入れた食事の日があり、子どもたちが楽しく食べられる工夫をしています。食事の様子は、担当職員が栄養士に伝えている。中・高校生は、お弁当を厨房で作ってもらっている。アレルギーがある子どもには、除去食で対応し、各ホームで確認して提供している。体調が悪いときは、おかゆやうどん、スポーツドリンクなど、食べやすいものを各ホームで様子を見ながら用意している。子どもが毎食の食事作りはしていないが、おやつ作りでスイートポテトを作ったり、畑で採れた野菜で簡単な調理をすることはある。高校3年生になってからは、栄養士と共に数回、調理実習を行っている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生以下の子どもは、職員が選んだ物を着ることが多い。購入する際は、子どもと一緒に出かけ、自分の好きな服を選ぶこともしている。中・高校生は、基本的には自分で買物に行き、好きな物を購入している。寄贈された衣類分けの際にも、その中から自分で好きな物を選んでもらうようにしている。汗をかいたら着替える、汚れたら洗濯することを促しているが、なかなか身につかず、時間が必要な子どもが多い。着飾ることやおしゃれに興味はあるが、「洗濯が面倒」、「面倒くさいことは後回しにする」という感じがあり、洗濯や整理、保管には意識が向きにくい。その都度、声かけをして一緒にやり、子どもが自分でできるように支援している。気に入った洋服を手放せない子どももいる。繰り返し説得したり、リメイクしてクッションに作り替えたりして、子どもが納得できるよう取り組んでいる。入学式や卒業式、七五三などには、園で式典用の服を用意している。七五三では、ボランティアのカメラマンにより、お祝いの写真撮影が行われている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

園の共有スペースや各ホーム共用の浴室などの水回りの掃除は、専門の職員が行っている。子どもたちは基本的に個室を使用し、プライバシーを保っている。机の周りにぬいぐるみを置いたり、ベッドに好きなシーツを使用するなど、自分の好みに合わせて居室を自由に使用している。清潔を保つことが難しい子どもが多いため、担当職員が声かけしたり、一緒に掃除を行ったりしている。住環境の整備は、それぞれの職員が意識して行っているが、個々の感覚に任せているため、各ホームによって差が生じている。各ホームで朝、夕のモップがけや台拭きなどの当番を決め取り組んではいるが、全体的に行き届いていないと感じている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

各ホームでは、普段と違う様子はないか、学校から帰ってきた時の様子はどうかなど、日常の健康状態の把握に努めている。体調不良の子どもがいる場合には、連絡会で職員間で状態を共有している。学校の欠席についても、同様に行っている。嘱託医による定期健康診断は、年2回実施している。服薬には特に注意し、薬はホームの担当職員が管理している。服薬する時は、見守りを必ず行って確認している。歯科の定期検診や予防接種も受けている。小児科だけではなく、皮膚科や眼科、整形外科、精神科など、幅広く地域の医療機関と連携し、子どもたちの健康管理に努めている。必要な情報は連絡会で職員間で共有している。知識を深めるための職員の学習会は行われていないため、今後の必要性を感じている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

子どもが高学年になる頃に、必要な話をしたり、子どもからの疑問や質問が出た時に答えるようにしている。異性に興味がある子どもが、他者を触ってしまうなどの行動があった場合は、話をよく聞き、心理士面談につなぎ、性に対する正しい理解が得られるようにしている。子どもによっては、児童相談所の保健師と面談をする機会を持つこともある。性に関する定期的な学習会は、子ども、職員とも、現在は実施していない。その必要性を感じている職員は多く、正しい知識を身につけた上で、子どもたちに適した伝え方や配慮する点などを職員間で検討し、「伝える力」を身につけるシステム作りが必要と感じている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	

【コメント】

子どもの生活が少しずつ乱れてくるような、生活の変化に気を付けるようにしている。万引きが起きた場合には、本人から話を聞き、店に職員と謝罪に行くようにしている。店の人から話をしてもらうこともある。児童相談所とは密に連携を取り、協議し取り組んでいる。必要に応じて、専門医療機関や警察に相談し、連携を取るようになっている。発生直後には、以前、飛び出してしまった子どもがいたため、落ち着けるよう事務所や個室を利用し、状況に応じて、複数の職員で対応するようにしている。家庭での経験不足から、不適切な行動にも繋がっていることも考えられるため、職員全体で十分に話し合い、対応を考えている。本人が自身の行動について振り返り、安心した生活を維持できるよう努めている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

月1回、全職員が参加して、ヒヤリハット会議を開催している。問題に対し、職員が適切に関わるよう情報を共有し、議事録の回覧も行っている。生活の中で手が出やすい子どもや、人をあおるようなことをする子どもには、意識して関わるようにしている。問題が発生した場合には、どうしてそうなったかなど、子どもから話を聞くようにしている。また、職員全体ですぐに共有し、連携して対応している。年度ごとに実施するホーム替えは、全職員で検討している。子ども同士の人間関係や担当職員との関係性、子どもが持つ課題など、さまざまな面から時間をかけて編成を協議している。ホーム内で子ども同士で問題が起こった場合には、話し合いを待ち、年度の途中でもホーム替えすることもある。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	

<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

心理士が週1回、勤務している。専用の心理室を使用して、2～3人の子どもと面接を行い、心理的ケアを実践している。心理士は、勤務日には連絡会にも出席し、専門的視点から助言を行い、支援を行う上で大きな支えとなっている。心理士は園のことを理解して関わりを持っており、職員から相談を受けたり、助言を行ったりもしている。心理士が1名で時間も限られているため、子どもへの対応としては行き届いていない面があると感じている。必要に応じて、児童相談所の心理士と面接を行う場合もある。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

学習の習慣化を図るため、公文式学習を取り入れている。学習の指導は、フリーの職員が対応している。希望する子どもには、学習ボランティアによる学習支援を行っている。また、塾に通っている子どももいる。小学生から中学生までの全員が、平日は毎日19時～20時まで勉強会に参加しているが、学習時間の確保は十分ではないと感じている。また、自分ではできていると思っている子どもが多く、学習習慣が身につくまでにはなっていない。本人に合った勉強ができているのかなど、学習支援の取り組み方、勉強会については、有意義なものにするための検討が必要と考えている。高校への進学率は100%となっている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

大学進学については、高校2年生の後半から少しずつ話を始め、高校3年生の前半には、それぞれの進路を決めている。高校受験や大学受験、就職については、子ども本人の希望に添うように進めている。学校や児童相談所のケースワーカーとも話し合い、最終的には子ども本人が決断できるようにしている。奨学金の活用など、金銭面の援助の情報も伝えている。進学したり、就職した子どもの相談に乗ったり、中退をしてしまった子どもには、通信教育での学習の継続を進めるなどのフォローを行っている。グループホームの利用を検討することもあるが、措置延長は取っていない。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

アルバイトは個人に任せているが、高校生になると社会経験の機会と考え、本人の意志を尊重しながら勧めている。自分たちでアルバイト先を見つけ、飲食店やドラッグストアなどで社会経験の機会を得ている。アルバイトを始める際には、その目的や園での生活、学業との両立などについて、話し合いを行ってから開始するようにしている。「携帯電話が欲しいから」という理由だけでのアルバイトにならないよう話をしている。勉強との両立が難しいと感じる子どももいるため、様子を見ながらメンタル面などの支援を行っている。実習の体験は、学校主導のものや神児研（神奈川県児童福祉施設職員研究会）、福祉事業関連からのものに対応している。園として積極的な開拓は現在行っていない。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	

【コメント】

家族と面会ができる状態の子どもが現在はほとんどおらず、家族との関係が希薄な子どもが多い。定期的に面会がある子どもについては、大切に考え、丁寧に支援している。保護者の状況や子どもの様子などを考慮して、面会場所や面会時間を慎重に設定している。児童相談所での面会から園での面会、更に外出面会と少しずつ段階を踏むようにしている。家族と直接、連絡を取り合うことは基本的にはないが、児童相談所と連携を取り、三者間で信頼関係が構築できるように努めている。行事に関しては、基本的に保護者が参加することはない。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども一人ひとりにより違いがあるが、定期的に面会を行ったり、保護者に行事の際の写真を渡したりしている家族については、児童相談所と連携を取り進めている。ホームステイ期間を利用して、一時帰宅や外泊面会が行われることもあるが、まれである。親子関係の再構築に向けて、面会などできることを検討し取り組んでいるが、実際に家族とやり取りができることが極めて少ない。今後も子どもの親に対する気持ちを聞いたり、園での子どもの様子や保護者の状況をみながら、支援できるよう取り組んでいきたいと考えている。